

平成28年度大阪府立三国丘高等学校
SGH フィリピンフィールドワーク報告書

SGH 研究主任 田中和代

1. 実施日：平成28年7月31日～8月7日（7泊8日）

2. 参加者：第2学年 SGH 授業選択生徒19名

3. 付添教員：6名

元関西学院大学教授 西本昌二先生、京都大学大学院 矢野圭祐氏

山口智子校長、本校教諭 山脇龍郎、大塚雅之、田中和代

4. 目的

フィリピンにおいて発展途上国の現状を視察し、人々の生活や問題点などを肌で感じ、課題研究である BOP ビジネスプランの作成に生かす。また、国際機関における研修を通じて国際支援の実情を学ぶとともに、エンドラン大学生との5日間の合同研修において海外の学生との理解を深める。

5. 日程

	日	訪問先	現地時刻	スケジュール詳細
Day1	7月 31日(日)	関西国際空港4F集合 関西国際空港発 ニノイアキノ国際空港着 Malayan Plaza Hotelへ	7:20 9:55 13:00 15:00 17:00 18:00	4階中央カウンター集合 PR407、空路マニラへ 専用バスにてホテルへ ホテルチェックイン ミーティング SMメガモールにて夕食 Malayan Plaza Hotel泊
Day2	8月 1日(月)	ホテル発 アジア開発銀行着 Malayan Plaza Hotel発 JETROマニラ事務所着 JETROマニラ事務所発 ホテル着	8:45 9:00 12:30 13:30 15:00 16:30 18:30 20:00	徒歩にてアジア開発銀行へ アジア開発銀行にて研修 昼食(アジア開発銀行食堂) 専用バスにてJETROへ JETROマニラ事務所にて研修 専用バスにてホテルへ SMメガモールにて夕食 ミーティング Malayan Plaza Hotel泊
Day3	2日(火)	ホテル発 Enderun College着 Enderun College 発 パヤタス着 パヤタス発 ホテル着	7:30 8:30 11:00 12:00 14:00 16:00 17:30 20:30	専用バスにて Enderun Collegeへ Enderun CollegeにてBuddyと会う Shopping Mallにて昼食 専用バスにてパヤタスへ パヤタスにて研修 専用バスにてホテルへ SMメガモールにて夕食 ミーティング Malayan Plaza Hotel泊
Day4	3日(水)	ホテル発 GK Farm着	7:30 9:30 10:30 12:00 13:30 19:00	ホテルチェックアウト/専用バスにてGK Farmへ チェックイン 研修① 昼食 研修② 夕食 GK Farm泊

	日	訪問先	現地時刻	スケジュール詳細
Day5	4日(木)	GK Farmにて終日研修	7:00 7:30 10:00 12:00 13:30 19:00 20:00	研修:③Farming 朝食 研修④ 昼食 研修⑤ 夕食 プール GK Farm泊
Day6	5日(金)	GK Farmにて午前中研修 GK Farm発	7:30 9:30 12:00 13:30 18:00 20:30	朝食 研修⑥ 昼食 チェックアウト/専用バスにてホテルへ SMメガモールにて夕食 Meeting Malayan Plaza Hotel泊
Day7	6日(土)	ホテル発 Enderun Collegeにて終日研修 ホテル着	8:00 8:30 11:00 13:00 17:00 20:00 21:00	専用バスにてEnderun Collegeへ Enderun Collegeにてプレゼン準備 昼食 プレゼン、認証式等 交流会、夕食 専用バスにてホテルへ ミーティング Malayan Plaza Hotel泊
Day8	7日(日)	ホテル発 ニノイアキノ国際空港発 関西国際空港着	10:00 14:00 19:05	チェックアウト PR408 空路関西国際空港へ 着後解散

6. 詳細報告

7月31日(日) 曇り

関西国際空港に全員元気に集合。保護者に見送られ、一路フィリピンへ。約4時間のフライトを終え、ニノイアキノ国際空港に到着。今年はフィリピン観光省のお気遣いで、Lei Receptionを実施していただいたの入国となった。約40分でMalayan Plaza Hotelに到着し、チェックインを済ませ近くのSMメガモールへ移動。1階ナショナルブックストアを解散・集合の場所にすることを説明、夕食はグループごとで食べた。生徒は元気な様子で、スーパーで果物などを購入していた。ホテル帰着後、就寝。



8月1日(月) 曇りのち雨

33階のExecutive Loungeで朝食(6時よりオープン)。9時よりアジア開発銀行(ADB)で研修を受けた。内容は以下の通り。

ADB International Visitors Program (IVP); Study Visit of Mikunigaoka HS
 01 August 2016, 9:00am - 12:00pm
 Venue: Lecture Theatre 2, North West Core

9:00-9:10	Group Registration at the ADB Visitors Reception Center, ADB Avenue
9:15	Group Photo Opportunity at the Courtyard
9:20-9:30	Introduction and Corporate Video
9:30-10:15	ADB Overview on the Mission and Operations of ADB By: Yuki Ikeda, Results Management Specialist, Strategy and Policy Department
10:15-11:00	ADB Overview on Poverty Reduction to Inclusive Growth, Strategic Priorities and Operational Focus in ADB By: Takeshi Ueda, Senior Natural Resources Economist, East and Asia Department
11:00-12:00	ADB Facilities Briefing and Tour By: Mirko Rizzuto, Facilities Planning and Management Specialist, Office of the Administrative Services, ADB By: Erwin Casalang, Associate Facilities Planning and Management Officer, Office of the Administrative Services, ADB
12:10	Visit to the Public Information Center and Group departure at the ADB Visitors Reception Center, ADB Avenue

池田氏からは ADB の活動内容と ADB の今後の展望を、上田氏からは自身の経歴についてと国際支援の実際について詳しくお話しいただいた。生徒たちからは、ADB の活動やフィリピンの現状についてだけでなく、国際機関で働くにはどうすればよいか、働くにあたってどのような能力が必要とされるか、国際支援という過酷な現場で働く方々の心を支えている哲学や理念についてなど、たくさんの質問がなされた。世界には ADB はじめたくさんの国際機関があり、様々な人々が世界中から集まり支援を行っていることを高校生の段階から知ることが、持続可能な世界の構築に貢献する人材を育てるうえで、とても意義深いことであると感じた。今年も中庭で記念撮影し、食堂で昼食をとった。



ADB での研修終了後、Makati City (マカティシティ) の日本貿易振興機構 (JETRO ジェトロ) マニラ事務所へ。ここでは、関悠里氏よりフィリンについての様々なデータの解説や、日本企業の進出についてお話しいただき、生徒たちからの質問にお答えいただいた。BOP ビジネスプラン作成という課題研究をするにあたって、フィリンのデータ入手は必須であり、生徒たちは熱心にメモを取っていた。



8月2日 (火) 曇りのち雨

いよいよ Enderun 大学のバディとの初対面の日となった。Enderun 大学では、昨年の本校との合同フィールドワークをもとに、新たに Leadership Program というカリキュラムを立ち上げ、そのカリキュラムを受講している生徒たちの中から選抜された 19 名と一緒に活動することになった。来比前にバディとメールでやりとりしていたとはいえ、直接会うのは初めてとあって緊張した面持ちの生徒たちだったが、すぐに打ち解けて日本で考えていた BOP ビジネスプランについて検討を始めていた。



午後は、世界的に有名ないわゆるごみ山のある Payatas（パヤタス）へエンドラン大学生と共に向かった。Payatas は地名で、今回訪問したごみ処分場は正式名を **Engineered Sanitary Landfills** といい、Quezon City が管理している。以前別の場所にあったごみ処分場が移転されたものであり（以前のごみ山はごみが崩れて多数の死者が出たため）、移転の際にメタンガスを集める装置を設置したり、ごみ分別の知識を広めたり、Payatas の住民の生活向上のための取組みをしている。フィリピンにはごみ焼却場がないので、ごみを圧縮して埋め立てるしかないのだが、いまだにごみの分別などによるわずかな収入で暮らしている人々が Payatas の町を形成している。今回の視察は昨年と同じようにバスの中から Payatas の町並みを見つつ、ごみ処分場の取組みを紹介している施設を訪問した。また、小高い丘の上からはごみ山の様子が見え、ごみを集める人々の様子やにおいなども肌で感じる事となった。生徒たちは、ごみ山の成り立ちやフィリピンのごみ処分について熱心に質問していた。西本先生からは、「ごみの処分方法はどの方法を選択するにしろ欠点がある。どのように環境とごみ処分のバランスを取っていくのか、考えていく必要がある。」というお話があった。現地のスタッフに、日本から持参した古着を渡し、Payatas を後にした。



8月3日（水）～5日（金）晴れ時々雷雨

いよいよ Enderun 大学の学生と一緒に GK Farm での2泊3日の研修となった。GK Farm は、フィリピンにある資源を使って産業を発展させ、人々に良質なものを供給するとともに貧困問題を解決していくことを理念とした広大な農場である。Social Enterprise を推進するプラットフォームとして、フィリピン国内に約 2,500 ヶ所の広がりを見せ、国外にもその運営方針が広まりつつある。GK とは“Gawad Kalinga”の略で、意味は “give care”。現在、GK Farm には世界中から優秀な若者が集まり、Social Enterprise を起業したり、学んだりしている。昨年訪問したときよりも様々な店が開店していたり、新しい建物が建ったりしていて、事業が順調に展開していることがわかった。

GK Farm での研修内容は以下の通り。

GK Farm 研修内容	
8月3日(水)	
10:00	Welcome Orientation / Expectations
12:00	Lunch
13:30	Social Entrepreneurship Lecture
	Social Entrepreneurship Demo1 Mushroom
	Social Entrepreneurship Demo2 Golden Egg
16:30	Ideation
19:00	Dinner
8月4日(木)	
6:00	Farming
7:30	Breakfast
9:30	GK Farm Tour
12:00	Lunch
13:30	Social Entrepreneurship Demo3 Plush and Play
	Social Entrepreneurship Demo4 Peanuts
16:00	Community Session
17:00	Ideation
19:00	Dinner
20:00	Swimming
8月5日(金)	
7:30	Breakfast
9:00	Ideation
11:00	Processing
12:00	Lunch
13:00	Departure

今年4種類の Social Entrepreneurship Demo (子供向けぬいぐるみ、鶏肉、マッシュルーム、ピーナッツバター) を見たが、そのうち3つはフィリピンの若者が起業したものであった。みんな、大学を出て働いてから、あるいは大学在学中に GK Farm を知り、その理想に感銘を受け、フィリピンの大卒者ならほとんどの者が手に入れる外資系会社での就職や高額な給与を捨てて、フィリピンのために一念発起して GK Farm で起業した若者たちだ。彼らは、商品や製造過程の説明とともに、どのような思いで起業に踏み切ったのかという話もしてくれた。「畑に肥しをまいたり、雑草をとったりしていると、自分はこんなところで何をやっているんだろうと思うことがある。でも、時代の変革期に自己犠牲ができるリーダーは必要だ。」「親に大学を出て農夫になると言ったらクレイジーだと言われた。」「祖父母の代は、人種差別が存在した。本来ならスペイン系は農場で働いたりしないが、僕の時代にそんな概念は時代遅れだ。自ら率先して行動を起こすことで、少しずつ差別をなくしていきたい。」貧富の差が拡大する発展途上国で、自国のために奮闘している若者の姿は、生徒たちの心に残るものとなったに違いない。



創始者である Mr. Tony Meloto が今年も我々を出迎えてくれた。彼は、大学卒業後、外資系の一流企業へ就職したが、出世の道を蹴ってフィリピンの貧困を終わらせるというビジョンのもと、新しい取組みに次々と挑戦し、現在の GK Farm を形作った。フィリピンの若者の新しいロールモデルとなる人物である。国内外で数々の賞を受賞している大人物だが、とても気さくな方で、

いつも食事は若者とテーブルを囲んでいる。今年も本校生徒会より、無線機一式を寄付させていただいた。昨年寄付させていただいたところ大変重宝していただき、災害の際にも有用だということで、西本先生のご尽力で今年はさらに高いアンテナなどを用意し、学校長より Tony に贈呈した。



Enderun 学生リーダーKamiekah の心遣いもあり、今年は GK Farm 滞在中に集中してビジネスプランを練る時間があった。本校生徒と Enderun の生徒たちは、はじめはなかなかうまく進んでいない班もあったが、お互いの意見を出し合い妥協点を見出しながら、最終的にはある程度のレベルにまで発展させることができた。



水のシャワー、ハエが飛び交う中での食事、決して便利ではないトイレなど、おそらく日本では経験のない不便さを感じる 3 日間であったが、生徒たちは思いのほか我慢強く、それなりに対処しながら過ごしていた。また、バディと同じ部屋で寝泊まりしたり、地元の子供たちと一緒に遊んだりしたことは、生徒にとってかけがえのない経験となった。



8月6日（土）晴れ

この日は Enderun 大学にて、午前中プレゼン準備、午後プレゼンとなった。Enderun の学生たちは、スライド作りやスピーチの構成、練習まで本当によく三国丘の生徒の面倒をみてくれ、午後の発表は三国丘の生徒がプレゼンし、質疑応答は Enderun の学生がサポートする形で行われた。また、昨年合同研修に参加してくれた生徒が司会として駆けつけてくれた。発表内容は以下の通り。

1. Value for Vegetables
2. Localizing Japanese Sweets (Yokan)
3. Anchors
4. Luncher
5. Custom-made Sudare
6. Rasta Cause

各班とも、日本で練ってきたビジネスプランが、フィリピンでの経験や Enderun の学生の協力によって新しいアイデアに生まれ変わっていたり、とても具体的に進化したりしていた。質疑応答では、三国丘の生徒が英語で質問したりする場面も見られ、昨年より活発な話し合いが行われた。



その後、Closing Ceremony として Enderun 大学学長の Mr. Ed Rodriguez 先生、西本先生スピーチをいただき、一人一人に修了証を贈呈したあと、記念植樹をした。その後、Enderun の学生が手配してくれた夕食会場へ。生徒は自主的に Enderun 学生リーダーの Kamiekah にお礼を述べるなど、最後の夜を楽しく過ごした。Enderun の学生はみんな優秀で面倒見がよく、年下の高校生相手にいろいろと尽力してくれた。三国丘の生徒にとっても一生のつながりができたのではないと思う。





夜ミーティングを行い、最後のスケジュール確認をするとともに西本先生よりフィールドワークを締めくくるお言葉をいただいた。生徒が、このような特別なフィールドワークをお手配いただいたことへの感謝を西本先生へ申し上げて、最後のミーティングが終了した。

8月7日（日）晴れ

10時にホテルを出発し、11時前に空港に到着、予定通り日本時間午後7時頃関西国際空港到着、解散した。

6. おわりに

今年は大変大きな収穫として、Enderun 大学が昨年の本校との交流を発展させた形で Leadership Program を立ち上げたこと、その主任である Marivic 教授とお話しできたことがあげられる。Leadership Program の内容は多岐にわたっているが、本校の SGH の取組みと重なるところがたくさんあり大変参考になるとともに、これからお互いそれぞれの Program の発展に協力していくことを確認することができた。

最後に、昨年に引き続きこのフィールドワークを実現して下さった Enderun 大学のエド学長、Leadership Program の Marivic 教授、学生代表の Kamiekah、そして西本先生、ADB、JETRO、GK Farm 関係者各位に心から感謝申し上げたい。

7. 生徒感想

- ・小学校から「世界には働かざるを得ない子供たちがいる」ということは何度も習っていた。しかし、実際に路上で通りがかる車の窓に手を伸ばして、手作りのアクセサリのようなものを売ろうとする子供たちを見たとき、言いようもなく悲しくなった。やはり自分の目で見た時の衝撃は、座学で学ぶだけでは得られないものである。スラム街の脇をバスで通った時、子供も大人もボロボロのTシャツとズボンに裸足、という格好の人ばかりだった。いくら都市圏に高層ビルがそびえ立っていても、国際機関の本部があっても、立派なショッピングモールがあっても、その傍で貧困層の人々がこのような生活を強いられている限り、『先進国』になれたとしても『豊かな国』にはなれないと思う。

しかし、その一方で、パヤタスの人々が見せた明るい笑顔を忘れることができない。彼らはものすごく劣悪な環境の中に暮らしているはずなのに、なぜか幸せそうに見えた。必ずしも『貧困層＝不幸』という図式が成り立つわけではないのかもしれない、という考えが浮かび、今もなお消えずに心に残っている。

自分の想像通りだったこともあるし、今までの考え方をひっくり返されるようなこともあった。見るものすべてが日本と違うというわけでもなく、しかし日本にいれば絶対に目にすることの無い景色を見せてくれたフィリピン。私は遠いようで近いこの国のことを心から好きになったし、またいつか訪れるような気がする。そしてその時には一回り成長して、フィリピンの発展に何か貢献できることを願っている。

- ・このフィールドワークを通して、「貧困」というものについて改めて感じさせられました。例えば、パヤタスのごみ山にしても、問題があるからといってただ単に撤去すれば良いのではなく、そこを生活の頼みの綱にしている人々についても考えなければなりません。「貧困」の解決は複雑で、つめの甘いプランでは到底太刀打ちできないものだと思いました。「支援」に関して同じことで、ADBで学んだように、幅広い視野で問題を多角的に分析しながらも、ひとつずつステップごとにさかのぼり、解決策を導いていかなければならないと感じました。また、一度支援を始めたら、最後までやり遂げる義務と責任がついてくることも忘れてはならないと思います。
- ・先輩が体験談を話していた時、「マニラはまさに戦いだ」と言っていたがその通りだった。私にとって今回の研修旅行は楽しいというのではなく、むしろ辛く大変なものだった。英語ができなくてプランが進まなかったり、グループがうまくいかなかったり、他のグループがあまり問題にしなかった問題が多く起こりしんどいと思った。でもそんな中でもやるしかないということになり、プランを英語で説明した紙を書いたり、何を言っているのかわからなくても何度も聞き直して確認したり、とにかく必死に力を出し切ったと思う。ただもっと英語力があれば、と思う機会も多く、聞き逃した話も多いと思う。いつか自分の耳で、翻訳されたものではなくありのままのことを聞き取れるようになりたい。
- ・貧困層に寄り添ってフィリピンを見たときのやるせなさや悔し涙、起業家やJETROからフィリピンを見た時の希望や可能性、バディーの横でフィリピンから世界を見た時の、フィリピンでだってなんでも出来るという無意識の心強さなど。様々な角度から一つの国を見ることで、国というものの正しい見方に少し近づけたような気がします。
- ・文化面の交流ができたことは印象深かった。私は元来アジア圏の文化にとっても興味があったの

で、スーパーで売っている商品ひとつ取ってもすごく刺激を受けた。また、ご飯を食べながらフィリピン人のボディと自国の文化について話したり、互いの言語を教えあったりしたことは、一生忘れないだろう。

- ・ 貧困というものを見たとき果たしてどのような情動が自分に起こるか。それを確かめることを一番の目的にフィリピンに行った。しかし、期待していたほどの心の動きを感じることが出来なかった。やはり自分は感情が希薄なのかとも考えたが、どうやらそこに原因があるのではなく、貧困を当たり前の事実として受け入れているところが原因のようだ。それは貧困を軽視しているのではなく、貧困の解決は絶対に実行すべきだという観念がもともと自分にあるということである。それよりも、私がこの渡航を通して感じたのは貧困のその先、格差の解決について自分の価値観を磨かなければならないということである。格差をなぜ解決しなければならないか、それには自分に何が必要か。フィリピンでの一週間はその問題を自分に突きつけるのに重要な時間だった。貧困の解決よりもその部分に焦点を当ててこの十年の人生を設計してゆく、というのがフィリピンフィールドワークを経ての私の最新の決意である。
- ・ 私が一番フィリピンに行って学んだことに国は違っても家族になれるということです。映画、音楽、絵画などの様々な芸術分野で、数々のアーティストが「世界は一つ、人間は家族」と訴えているのを聞いて、ただの理想の話だとどこかで思っていました。しかし、フィリピンの人に会い、話し、笑い、生活を共にすることでそれが本当に可能なのだということ、実感させられました。また GK のように自分たちで立ち上がり、自分たちで良くしていこうという考え方が、この国をもっと強くしていくのだらうと思ひ、BOP のあり方についても考え直す機会となりました。さらに、自分たちのプランのように、その場所に、その環境に入ってからこそわかってくることはすごく大きいと感じました。

8. アンケート結果

- 1 フィリピンフィールドワークは全体としてどうでしたか。
- 2 アジア開発銀行での研修はどうでしたか。
- 3 ジェトロにおける研修はどうでしたか。
- 4 Payatas視察はどうでしたか。
- 5 GK Farmにおける研修はどうでしたか。
- 6 Enderun大学生とのBuddy Systemはどうでしたか。
- 7 Enderun大学でのプレゼンテーションはどうでしたか。
- 8 ホテルはどうでしたか。
- 9 食事はどうでしたか。

	とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
1	100%	0%	0%	0%
2	95%	5%	0%	0%
3	47%	47%	5%	0%
4	79%	21%	0%	0%
5	89%	11%	0%	0%
6	100%	0%	0%	0%
7	63%	37%	0%	0%
8	89%	11%	0%	0%
9	53%	32%	11%	5%

以上